

## 無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎には、エンテロウイルス、ヘルペスウイルス、ムンプスウイルスなどのウイルスやマイコプラズマ等様々な病原体が関与していますが、全体の約 85% はエンテロウイルスが原因であるといわれています。したがって、当疾患の流行時期はエンテロウイルスの流行時期に一致しており、夏から秋にかけての発生が最も多くなっています。感染症発生動向調査等においては、基幹定点を中心として採取された無菌性髄膜炎検体（髄液、咽頭拭い液、糞便）の検査を実施しています。1989 年から 2006 年 8 月の間に埼玉県内で採取された検体からのエンテロウイルス検出状況を表に示しました。

埼玉県内では、1990 年から 1991 年にかけてと、1998 年を中心としたエコーウイルス（Echo）30 型、及び 2002 年の Echo13 型の大流行がありました。Echo13 型は 2001 年 12 月に県内で初めて検出され、翌年に大きな流行となりました。また、1991 年には Echo9 型の小流行がみられ、2000 年には手足口病に併発した無菌性髄膜炎からのエンテロウイルス（EV）71 型の検出が目立ちました。コクサッキー B 群ウイルス（CB）は毎年検出されていますが、なかでも 5 型、2 型の検出数が多くなっています。この他、Echo6、7、11、14、16、18、25 型等多くの血清型の EV が検出されています。

無菌性髄膜炎は入院を要する小児の重篤な感染症であり、特に EV71 型感染によるものでは重症例も見られるため、病原体の確認が重要です。しかし、ここ数年、搬入される検体数が少なく、県内で流行しているウイルスを把握することが困難になっています。今シーズンは、西日本で Echo18 型の流行が、また、長野県で EV71 型の流行が報告されており、県内においてもその動向に注目することが必要です。病原体定点医療機関の先生方におかれましては検体採取に御協力をお願いいたします。

無菌性髄膜炎検体からのエンテロウイルス検出状況

年	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06
検体数	40	102	96	33	35	49	55	85	62	147	67	126	73	76	81	31	21	14
Echo9 型		1	6	1					1	1				1				
Echo13 型													2	26				
Echo30 型		16	42						8	81	5				2	1		
EV71 型												7			1			1
CB	5		6	3	2	1	2	8	3		7	6	2	2				1
その他の EV	1	1		3	1	2	2	1		6	5	2	1		12	7	3	1